

佐 潟 通 信

佐潟水鳥・湿地センター

佐潟の近況「冬のように」

今冬も佐潟をねぐらとしてハクチョウやカモ達がたくさん飛来しています。しかし、積雪や強風など冬の厳しさが足りないせいなのでしょうが、例年に比べ特にカモたちの飛来数が少ないようです。元旦が晴天になり、雪国を返上させるような好天の日が続いた

ため、佐潟では土日だけでなく散策する人が多くいます。

1月末には迷鳥「アオハクガン」が飛来しバードウォッチャーを沸かせてくれました。

2月に入っても寒波は訪れず春のような陽気が佐潟を包み、2月8日にはオオイヌノフグリとヒメオドリコソウの花を見つけました。このまま春になるのでしょうか。

← (写真) アオハクガンの飛立ち

1月28日6:50 佐潟初確認 (佐藤)

当日からの市民探鳥会で話題をさらいました。コハクチョウ群と付かず離れず生活していたようで、2月7日までの11日間佐潟をねぐらにしていました。



自然・野鳥情報

- ・ 11月9日 ガンちゃん(羽を痛め13年間佐潟に生息するマガン)に寄り添う別なマガン1羽。すぐいなくなり残念。
- ・ 11月17日 ハクガン(幼鳥)1羽確認(当日のみ)
- ・ 12月 ウソやアカゲラがたくさんいました。
- ・ 12月7日 オジロワシ初認
- ・ 1月 オシドリ(雄)1羽が連日確認されました。



上潟を飛立つハクガン幼鳥



左は寄り添う若いマガン、右はガンちゃん



ウソの群れがにぎやか

オジロワシが時々カモを襲う→



佐潟の野鳥紹介「ノスリ」(鷲)

アジア・ヨーロッパの低地から山地にかけてすみ、原野や草原にとりあう森で繁殖します。冬はより開けたところへ出てきます。餌の種類はミミズ・カタツムリ・大型昆虫・ネズミ・ウサギ・キジ類と変化に富み、獲物をねらうとき、停空飛翔をすることがあります。ピーウと鳴き、冬期は耕地で生活するものが多いです。佐潟では、冬、周辺の畑地や林で見られます。

全長：雄 52cm 雌 57cm

(翼開長：雄 122cm 雌 137cm)

体重：748～970g



タカ目・タカ科

英名：Common Buzzard

学名：*Buteo buteo*

分布：[国内]北海道・本州・四国・伊豆大島の山地で繁殖するほか、全国に分布しています。冬は低地へおりますが、大規模な渡りはしません。

佐潟の植物紹介「ノイバラ」



ノイバラの実

茎はよく枝分かれして立ち、高さ1～2mになります。鋭いとげが多く葉は奇数羽状複葉で裏面に軟毛があります。白色か淡紅色の香りのよい5弁花を多数つけます。花茎は2～3cm

になり果実は赤く熟します。日当たりがよく、やや湿った土質の場所を好むので河川敷や堤防などに多いです。佐潟では、観察舎付近など南東側道路脇に見られます。周遊する際には、はみ出ている茎のトゲに注意が必要です。

落葉低木 花期 5月～6月

バラ科・バラ属

学名：*Rosa multiflora*

佐潟市民探鳥会、開催しました。

世界湿地の日協賛イベントとして平成19年1月28日(日)に恒例の佐潟市民探鳥会がにいがた野鳥の会の協力を得て開催されました。当日は冬晴れになり絶好の探鳥会日和となりました。



初めて参加した市民や子どもたちを含めた106名が3班に分かれ各々目を輝かせながらバードウォッチングを楽しみました。

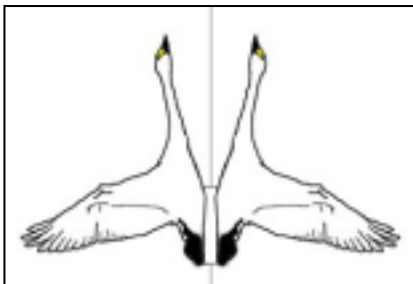
初心者、観察舎コースに参加の方々は9時過ぎから、湿地センター内で「白鳥カウントゲーム」や「白鳥ペーパークラフト」を楽しみました。これは子ども向けに企画していましたが、大人も熱中し制作していました。

参加者の約半数が上級者コース(全周)に参加し、飛立つ白鳥を仰ぎながらもヨシ原や周遊道に現れる小鳥達の姿を追いました。

探鳥会後には、地元赤塚漁協の方々の協力で鯉汁が振舞われました。野鳥を通じて佐潟の自然を感じ、また食を通じ昔から漁業が行われている佐潟の恵み、地元の食文化を感じていただけたのではないのでしょうか。皆様の参加と協力に感謝申し上げます。



白鳥ペーパークラフトは「簡単！」



白鳥ペーパークラフトの用紙



鯉汁は全く臭みなく「絶品！」

観察鳥種 51種

カイツブリ ハジロカイツブリ
 ダイサギ コサギ アオサギ
 ヒシクイ ハクガン (アオハクガン)
 オオハクチョウ コハクチョウ
 オシドリ マガモ カルガモ ヒドリ
 ガモ コガモ トモエガモ オナガガ
 モ ホシハジロ ミコアイサ カワ
 アイサ トビ オジロワシ オオタカ
 チュウヒ オオバン タゲリ キジバ
 ト カワセミ アカゲラ コゲラ ハ
 クセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウ
 ビタキ シロハラ ツグミ ウグイス
 エナガ ヒガラ シジュウカラ ホオ
 ジロ カシラダカ アオジ オオジュ
 リン カワラヒワ マヒワ ベニマシ
 コ ウソ ムクドリ オナガ スズメ
 ハシボソガラス

スケジュール 平成19年1月28日			
7:20	探鳥指導員・スタッフ集合		
	探鳥会開会・挨拶・コース案内・班分け		
7:30	初心者コース (湿七周辺)	観察舎コース (湿セ～観察舎)	上級者コース (湿セ～中道～湿セ)
7:40	探鳥会開始		
8:50	鳥合わせ (湿地七周辺)	鳥合わせ (湿地七周辺)	探鳥中
9:00	ネイチャーゲーム・白鳥ペーパークラフト (湿セ内レクチャースペース)		
10:30			鳥合わせ (湿地七周辺)
10:40	文化についての語り・潟の産物試食(東壇)		
11:30	閉会(コースごとに解散)		

センターからのお知らせ

🐦 佐潟探鳥散歩(月例探鳥会)と佐潟自然散歩(月例観察会)のご案内

2月までの冬期間「佐潟探鳥散歩」を開催しています。3月からは「佐潟自然散歩」として開催時間が変わります。佐潟ボランティア解説員の皆さんがやさしく解説、ご案内いたします。

開催予定日時

(探鳥散歩)	2月10日(土)	24日(土)	午前7時30分～9時00分
(自然散歩)	3月10日(土)	24日(土)	午前9時30分～11時00分
(自然散歩)	4月14日(土)	28日(土)	午前9時30分～11時00分

毎月第2第4土曜日に開催しています。お気軽にご参加ください。

●貸し出し用「新規・双眼鏡」ご利用ください。

野外でのバードウォッチング用に双眼鏡を貸し出ししていますが、今回視認性など性能が格段にアップした双眼鏡(MONARCH 8倍)5台を用意しました。窓口に申し込みして貸し出し帳に記載すればどなたでも無料でご利用いただけます。佐潟の美しい野鳥や景観を美しいままに体感ください。(写真右が新規・双眼鏡)



●ペレットストーブを設置しました

湿地センターの暖房システムが、「電気」から「木・炎」に変わりました。環境にやさしい新エネルギーとして開発が進められている地元企業製のペレットストーブです。まるで薪ストーブのようで、燃料は間伐材や端材・樹皮などを破碎→乾燥→圧縮したもの(=ペレット)を使用します。CO₂を吸収した樹木を高効率にエネルギー利用することで、CO₂排出制御も期待できます。また、ゆらゆらと炎が見えるので心暖まる館内の雰囲気も来館者にも好評です。今後は佐潟から排出される植物材料でのペレット形成ができないか「賢明な利用」を念頭に検討していく予定です。



🐦 佐潟水鳥・湿地センター利用のご案内

【開館時間】9:00～16:30(冬期間の11月から2月の土・日は7:00から)

【休館日】月曜日(但し祝日の場合は翌日)、年末年始

佐潟についての情報、質問等ありましたら、お気軽にFAXかE-mailをください。

編集	佐潟水鳥・湿地センター 〒950-2261 新潟市赤塚5404番地1 電話 025(264)3050 / fax 025(264)3051 E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp
発行	新潟市市民局環境部環境対策課 〒951-8550 新潟市学校町通1番町602番地1 電話 025(228)1000(内線)32731